

おおだいがはら 大台ヶ原

再生目標

大台ヶ原の現存する森林生態系の保全を図るとともに、天然更新により後継樹が健全に生育していた昭和30年代前半までの森林生態系への再生を目指す

DATA

エリア：吉野熊野国立公園
所在地：奈良県吉野郡上北山村他
着手：H14

大台ヶ原自然再生推進計画 評価委員会

概要：台風による倒木、ニホンジカによる樹木の剥皮、利用者の増加による環境負荷など、複合的な要因により衰退が進行した森林生態系の再生を検討。



大蛇窟（だいじゃくら）



東大台（トウヒ林）
近畿地方では希少なトウヒやウラジロモミが優先する亜高山性針葉樹林やブナが優先する冷温帯性広葉樹林がまぎれあって残っている



ニホンジカによる樹木の剥皮が生じている



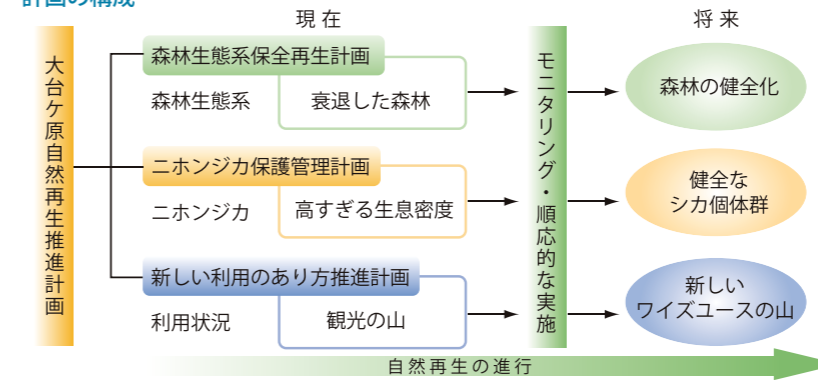
ドライブウェイの開通によって利用者が増えたことも、自然環境へ負荷を与える一因となっている

自然再生の手法

- ▶ 植生タイプ毎の特性を踏まえ、後継樹の生育を手助けする→①②③
- ▶ 健全なニホンジカ個体群に誘導する
- ▶ 公園利用の「量」の適正化と「質」の改善を図る

大台ヶ原の森林生態系の再生においては、周辺地域における自然環境の変化の把握やその連続性の回復に関する検討、さらにこれらを踏まえた公園利用の「量」の適正化と「質」の改善等が必要です。このため、ニホンジカによる剥皮対策、後継樹の育成促進手法の検討に関する森林生態系保全再生実証実験、公共交通機関の利用促進等、総合的な利用対策に関する調査等を行っています。

計画の構成



森林生態系の保全再生手法 (再生ポテンシャル評価に基づく具体的な再生手法)

再生ポテンシャル	高	中	低
対応方針	保全	保全+再生	より積極的な再生
実証実験の具体的な手法	防鹿柵	防鹿柵 ササ刈り 地掻き	防鹿柵 ササ刈り 地掻き 表層土除去 播種

① 森林生態系保全再生実証実験

森林の保全再生手法を検討するため、各種実証実験を行っています。具体的には、植生タイプ毎の特性を踏まえ、森林再生の可能性（再生ポテンシャル）を評価した上で、防鹿柵、強い日射をさえぎるネット、ササ刈りや地掻きによる地表処理などの手法を組み合わせ、後継樹の生育を促進する実験を行っています。



ササ刈り実験区



環境条件調査・種子量調査の状況

② 防鹿柵の設置

ニホンジカによる植生への影響を取り除くため、生息密度の高い区域を中心に、ある程度広い範囲を囲う防鹿柵を設置する区域保護対策を行っています。



防鹿柵

③ ラス巻きによる単木保護対策

個々の樹木での樹皮はぎを防止するため、植生保全の緊急性が高い地区から、金網の巻きつけを実施する単木保護対策を行っています。



ラス巻き